JAPIC NEWS

2 2007.月号
(No.274)

CONTENTS

《巻頭言》
「過去の積み重ねによる結果の是非と将来設計」……2
社団法人日本医師会　副会長　竹嶋 康弘
《インフォメーション》
「JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版」2007年1月版発売……4
第35回JAPIC医薬情報講座開催案内……4
《トピックス》
JAPICサービスの紹介（1）「JAPIC Daily Mail」……6
新入職員紹介……8
くすりの散歩道（1）日本の医薬品の数はどのくらいあるのか？……9
《シリーズ》
東南アジアの医療事情（10）　ブータン②
ネパールと似ている保健衛生事情－でも将来は？
JICAシニア海外ボランティア　土屋　自佑……10
《図書館だよりNo.200》……13
《1月の情報提供一覧》……15

財団法人　日本医薬情報センター（JAPIC）

巻 頭 言

過去の積み重ねによる結果の是非と将来設計

社団法人日本医師会
副　会　長
竹　嶋　康　弘
(Takeshima Yasuhiro)
(JAPIC　副会長)

慌しい年末が過ぎ、束の間の安らぎも年明けの三が日だけで、早くも 2007 年も 1 か月が過ぎました。私は昨年の 4 月に日本医師会副会長という重責につきましたが、目下、東京と福岡を頻繁に往復する日々が続いております。とはいうものの、日本の医療を少しでもより良いものにしたいという気持ちを糧に、日々務めております。

東京に在住するようになって、早 10 か月が過ぎますが、この生活の中でまず気づいたことは、東京は緑が非常に多いということです。これは意外でした。そして今ひとつ、九州と同じ位に暖かいことです。その中でつくづく感じたことが地球温暖化の問題です。気象庁の発表では昨年 12 月の世界の平均気温が 1891 年以降の統計史上最高だったとのことです。最近は、夏季は摂氏 30 度を超える日が何十日もあることも、冬季は雪を見ることが少なくなったことも当り前と思いがちです。しかし、これらは地球温暖化の結果だったのです。

1980 年代にしばしば、フロンによる温室効果やオゾン層の破壊が取りざたされておりました。この後、これらを含めた CO_2 排出による地球温暖化問題がマスコミを騒がせるようになったと記憶しております。

1997 年 12 月 11 日には、京都の国際会議場で地球温暖化防止京都会議（第 3 回気候変動枠組条約締約国会議）が開催され、地球温暖化の原因となる CO_2 などの排出削減目標を会議参加各国に義務づける所謂、京都議定書が議決されました。しかし、世界最大の CO_2 発生国であるアメリカ合衆国が国内産業の事情により締結を拒否し、ロシア連邦も受入れを見送ったため、棚上げになってしまった経緯があります。それでも、2004 年にロシア連邦が批准したことにより、ようやく京都議定書は 2005 年 2 月 16 日に発行されましたが、残念なことに、アメリカ合衆国は依然として離脱したままです。

しかし、この京都議定書が発行したからといって、直ぐに CO_2 などの問題が解決し、地球温暖化の問題が解消されるわけではありません。今現在も徐々に地球温暖化は進行しております。何も考えなければ夏が暑くなったとか、冬が暖かい程度で済んでおりますが、海岸に近い都市では水没の危機の問題であったり、海抜の低い島を領土としている国では存亡の問題であったりします。この問題には世界レベルでの真摯な取り組みが不可欠と思われます。

ところで、この地球温暖化の問題は 1980 年代頃から分かっていたわけですが、京都議定書が発行するまでには 20 年以上を要したことになります。これを評価するか批判する

かは意見の分かれるところだと思いますが、問題を残しつつも過去からの地道な積み重ねと努力がこの結果を生んだものといえます。いうまでもなく、私達が目にする現在の事象は過去の積み重ねの結果であり、時間という流れのなかで途切れることなく連続しているものです。

このことを理解するうえで、一番分かり易い例としては人口問題があります。それぞれの年次の出生数は絶対的な数字であって、その後の時間的な推移の中で減ることがあっても、増えることはあり得ません。しかし、誰でも知っていることですが、現在のわが国は少子高齢化社会に突入し、医療、介護、年金の問題だけではなく社会のいろいろな面で影響や問題を起こしています。まず、少子化については実数で把握できるわけですから、その傾向が現れた時点で対策を講じれば問題は発生すべくもないわけです。高齢化についても統計上把握できるわけですから、同様に対策は講じられるはずです。最近、政府も少子化問題にやっと真剣に取組む姿勢を見せていますが、遅きに失した観があり、過去の対応が現在見られるような結果として端的に現れている例といえます。

また、忘れてはならないのは形あるものを一度壊してしまうと、それを元に戻すには極めて厖大な労力が必要になるということです。私達の身近な医療分野でその例を探すのは簡単です。それは英国の医療制度の功罪をみれば明らかです。サッチャー政権下で行われた厳しい医療費抑制策の結果として、入院待機者の増大など深刻な問題を発生させ、さすがにブレア政権は政策を一変させ、医療分野への予算投入に転じましたが、時既に遅く、一旦壊れた英国医療供給体制は簡単には元に戻れそうにないのが実情のようです。

現在わが国で問題になっている医師の偏在・確保の問題も、当然、過去の対策の不備の結果といえます。

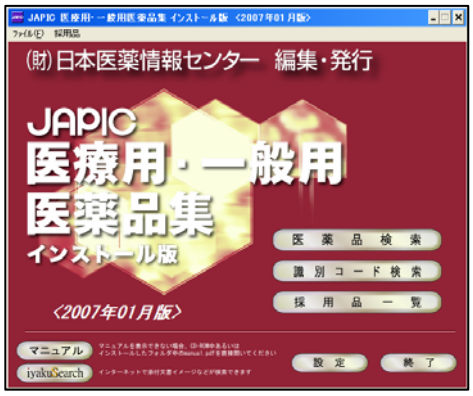
我が国が世界に誇る国民皆保険制度も、厚労省はもとより、政府や国民が将来を見据えたしっかりしたヴィジョンを持たないと、あっという間に崩壊してしまう脆さがあることを危惧しています。

昭和 36 年に国民皆保険制度創設以来、私達日本医師会も将来の日本の医療をどうすべきか十分に見極め、さらによい結果を生むような新たな制度設計を検討してきましたが、常に国民と患者の視点に立ち、国民と患者が明るい将来を享受できるよう更なる健康の増進と医療の質の向上に、しっかり努めて行きたいと思います。

Information

「JAPIC 医療用・一般用医薬品集インストール版」

2007 年 1 月版発売のお知らせ



2007 年 1 月 26 日に首記インストール版を発売いたしました。
本 CD-ROM（Win・Mac 両対応）の仕様・収録内容は次の通りです。

●収載データ

医療用医薬品データ：2007 年 1 月上旬時点の**医療用医薬品添付文書情報・薬剤識別コードデータ及び薬価データ**を収載

一般用医薬品データ：2006 年 3 月一般用医薬品調査に基づいたデータを収載

●搭載機能

・各種検索・表示機能：医療用薬（識別コードを含む）、一般用薬の添付文書記載情報（今版より YJ コード検索機能が追加になりました）

・院内採用医薬品集編集機能

・iyakuSearch 収載医療用薬添付文書 PDF のリンク・表示機能

《**YJ コードリストから採用品への一括登録ツール（Win 専用）**を CD-ROM に収録》

●価格・お申し込み

1 枚 15,000 円（税・送料込）、年間セット（1・4・7・10 月版のセット）を 25,000 円（税・送料込）で提供。また、複数台をお申込みの方はお問い合せください。

問合せ先：事務局 業務・渉外担当（TEL：03-5466-1812、 FAX：03-5466-1814）

第 35 回 JAPIC 医薬情報講座開催案内

日　　時　：　2007 年 3 月 1 日（木）～2 日（金）　2 日間

テ ー マ　：　「医療の安全対策と医薬品情報」

場　　所　：　日本薬学会長井記念ホール（東京都渋谷区渋谷 2-12-15）

１．開催の趣旨

近年の医療界の大きな流れは患者に最適な医療を安全に提供することが強く求められており、医療全般の領域でシステムの改革が進められています。今回は「医療の安全対策と医薬品情報」をテーマに関連分野の先生方に現状の取組みと今後のありかたについてご講演いただくことにしました。

1 日目は行政、関連団体等から新しい取組みの概要と関連基礎情報を、2 日目は、医療現場、情報提供、最新テクノロジーの取組みなど医療の現場により接近した内容についてプログラムを組みました。

２．定　　員　毎日の定員は 150 名

３．お申込方法等

参加者１名毎に、参加申込書に必要事項をご記入の上、２月 20 日（火）までに Fax（03-5466-1814）または JAPIC ホームページ入力フォーム（参加申込書）http://www.japic.or.jp からお申込み下さい。(先着順)

お申込み受付されますと聴講券、請求書をお送りいたします。満席の場合はその旨ご連絡いたします。参加者には、会場で当日のテキストをお渡しします。聴講券を提示して下さい。

・本講座は(財) 日本薬剤師研修センター認定研修対象です。(1 日 3 単位)

４．参　加　費

１人１日ごとに、１万円（JAPIC 会員は 5,000 円）

※参加費には資料代、消費税を含みます。なお、昼食はご用意いたしません。

５．お申込み・問合わせ先

TEL.03-5466-1812　FAX.03-5466-1814

プログラム

1 日目 3 月 1 日（木）

10:00 ～ 10:10　理事長挨拶

10:10 ～ 11:00　行政の最近の動き
厚生労働省医薬食品局安全対策課 課長　　伏見　環　先生

11:00 ～ 11:50　総合機構における安全対策の取組み
医薬品医療機器総合機構安全部 安全部長　別井　弘始 先生

12:00 ～ 13:30　（昼　食）

13:30 ～ 14:30　神経系副作用への対応－重篤副作用疾患別対応マニュアルから
東京医科歯科大学大学院 教授　　水澤　英洋 先生

14:30 ～ 15:30　消費者からみた医薬品安全対策
納得して医療を選ぶ会　代表　　今井　聡美 先生

15:30 ～ 15:50　（休　憩）

15:50 ～ 16:50　医療事故情報収集等事業
（財）日本医療機能評価機構・医療事故防止センター部長
後　　信　先生

17:00　～18:30　懇親会　（長井記念館ホール・ロビー）

2 日目　3 月 2 日（金）

10:00 ～ 11:00　薬剤サイドエフェクトとバイタルサインの評価
早稲田大学大学院教授　　西村　敏博　先生

11:00 ～ 12:00　がん対策情報センターの取組
国立がんセンター 薬事・安全管理室室長　柴田　大朗　先生

12:00 ～ 13:30　（昼　食）

13:30 ～ 14:30　ナノテクノロジーを利用した DDS
ナノキャリア（株）取締役 CSO　　加藤　泰己　先生

14:30 ～ 15:30　日本中毒情報センターの活動
大阪中毒 110 番施設長　　遠藤　容子　先生

15:30 ～ 15:50　（休　憩）

15:50 ～ 16:50　癌専門薬剤師の取組み
国立がんセンター薬剤部　部長　　北條　泰輔　先生

16:50 ～ 17:00　閉会の挨拶

TOPICS

JAPIC サービスの紹介　（1）

「JAPIC Daily Mail」

医薬品・医療機器等の安全性に関する海外規制措置情報

今回より、現在ユーザーの皆様へ提供している JAPIC の各種サービスについて随時ご紹介していく予定です。JAPIC の活動の一端を知っていただく機会になればと考えます。第 1 回目は、医薬品・医療機器等の安全性に関する海外規制措置情報「JAPIC Daily Mail」（以下 JDM）サービスについてご紹介します。

JDM サービス開始の背景

平成 12 年 12 月 27 日に、医薬品の市販後調査の基準に関する省令（以下「医薬品 GPMSP」）の一部を改正する省令が公布されました。新医薬品の市販直後調査が新設されるとともに、外国措置情報の収集の強化対策として、外国措置情報の迅速な収集、検討を一層促進するため、医薬品 GPMSP 第 8 条に規定する製造業者等が市販後調査業務手順書に基づき収集すべき適正使用情報に、外国政府や外国法人等からの情報収集が含まれることが明確化されました。
JDM サービスは、このような医薬品 GPMSP の一部改正に伴う外国措置情報の収集等の業務支援を目的として、平成 13 年 5 月より製薬企業会員を対象に開始しました。
サービス開始から 5 年を過ぎた現在、140 社を超えるユーザー様にご利用いただいております。

JDM サービス内容

JDM では外国規制当局（米、英、独、豪、カナダ、スウェーデン、EU、WHO）および日本の規制当局がインターネットで発信する医薬品・医療機器等の安全性に係る措置情報の概要を、電子メールにより、即日、日本語で提供しています。
原則としてメールの送信は 1 日 2 回で、午前中に「プレ送信」、午後に「本送信」を行います。「プレ送信」では、迅速な情報提供を求めるユーザー様のご希望にお応えして、当日提供予定の外国規制当局からの情報を、日本語概要を付けずに原文のまま送付しています。2 回目の「本送信」は、日本語概要を加え、同日午後にお届けします。

D06092803【イギリス MHRA】医薬品
■ Cardiovascular safety of COX-2 inhibitors and non-steroidal anti-inflammatory medicines

（EMEA/378695/2006）
http://database.japic.or.jp/admin/bgw?id
http://www.emea.eu.int/pdfs/general/di
（Q and A）
http://database.japic.or.jp/admin/bgw?id
http://www.mhra.gov.uk/home/idcplg?
IdcService=GET_FILE&dDocName=CON

（掲載サイト）
[MHRA]／What's new
http://www.mhra.gov.uk/
[MHRA]／Safety warnings and messae
http://www.mhra.gov.uk/home/idcplg?Id

←（プレ送信）

（本送信）→

D06092803【イギリス MHRA】医薬品
■ Cardiovascular safety of COX-2 inhibitors and non-steroidal anti-inflammatory medicines
● COX-2阻害剤およびNSAIDsの心血管安全性について
欧州規制当局（EU・EMEA）は，最近入手可能になったCOX-2阻害剤およびNSAIDsの心血管安全性に関するエビデンスについて検討していることについて，
D06092701（No.1315（2006.9.27））でお知らせ致しました以下のEMEA Press releaseおよびQ & A（NSAIDsとcoxibsに関するQ & A）が掲載されています。
「2005年10月のEMEAの会合において，EMEA・CHMPは医療専門家による非選択的NSAIDsの処方について，EUにおいて一貫したものとするために，多くの変更について勧告した＜D05101801（No.1085（2005.10.18））：「EMEA，非選択的NSAIDsに関する最新情報を提供」参照＞。2005年10月の評価から1年，EMEAは非選択的NSAIDsの心血管安全性について再調査しており，2006年10月16－19日の会合で科学的見解が得られる予定である。
特に長期治療に用いられた場合に，非選択的NSAIDsの一部において，心臓発作および卒中発作のような血栓性リスクの増加の可能性が示唆されるような，臨床および疫学試験からの非選択的NSAIDsの心血管安全性に関する新たなデータおよび分析が現在利用可能である。
2005年10月の評価以降，3つの非選択的NSAIDs（ketoprofen，ketorolac，piroxicam）についてさらに検討されている。EMEA・CHMPは，piroxicamが他の非選択的NSAIDsに比べ，消化管安全性プロファイルが劣り，皮膚反応のリスクが高い可能性があることについて懸念している。European Commissionの要請により，EMEA・CHMPは現在piroxicamの全体的なリスク・ベネフィットプロファイルの正式な再評価を開始している。ketoprofen，ketorolacに関して，EMEA・CHMPは適応症に対する使用に関連したリスクをベネフィットが上回ると結論している。（EMEA/378695/2006，2006年9月26日付け）
また，非選択的NSAIDsの再評価に関するQ & A（EMEA/376641/2006，2006年9月26日付け），ketoprofen，ketorolac，piroxicamに関するQ & A（EMEA/377567/2006，2006年9月26日付け）が掲載されている。」

（EMEA/378695/2006）
http://database.japic.or.jp/admin/bgw?id=9906 （保存資料）
http://www.emea.eu.int/pdfs/general/direct/pr/37869506en.pdf
（Q and A）

JDM と iyakuSearch 規制措置情報データベース

毎日、電子メールの形でお届けする JDM はご登録メールアドレスに送信後、JAPIC が提供する医薬品情報データベース「iyakuSearch」中の規制措置情報データベースにアップされます。
規制措置情報データベースには、2004 年 1 月からの JDM の内容が全て蓄積されており、キーワードによる検索のほか、規制当局や情報種別（医薬品、医療機器、その他）による絞込み検索を行うことができます。

また、該当文書の保存を行っておりますので、JDM でお知らせした時点での文書がご覧いただけます。
この規制措置情報データベースは、JDM サービスをご利用の団体・機関に所属される方であれば、無料で検索・閲覧していただくことが可能です。（利用登録による ID およびパスワードの入手が必要となります。）

（JAPIC ホームページトップ画面）
http://www.japic.or.jp/

（iyakuSearch トップ画面）
http://database.japic.or.jp/

（iyaku Search 検索画面）

JDM サービスの無料トライアルについて

新規に JDM サービスのご利用開始をお考えのユーザー様を対象に、無料トライアルを行っております。お申し込み後、約 1 ヵ月間ご希望のメールアドレスへ毎日 JDM をお届けします。
詳細は業務担当（電話：03-5466-1812、メール：gyoumu@japic.or.jp）までお問い合わせください。

新入職員紹介

森田　奈津子 *(Morita Natsuko)*

（医薬文献情報担当）

医薬文献情報担当としてお世話になることになりました。これまでは明治薬科大学薬学部を卒業後、治験関連の仕事をしておりました。医療に対する関心の高まりやインターネットの普及等を背景に医薬品情報の重要性は今まで以上に増大し、ニーズも多様化していると認識しております。

JAPIC 医薬品情報を利用して下さる方の希望に沿えるようなサービスが提供出来るよう日々努力していきたいと考えております。

趣味は 3 年前より始めたアロマテラピーです。気分転換したい時やリラックスしたいときに、気分に合わせて精油を選び芳香浴や湯船に精油を数滴たらすなどして楽しんでいます。JAPIC 医薬品情報を利用して下さる方の立場に立ったサービスを提供できるよう心掛け、どんなことにも前向きに取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞご指導頂けますようよろしくお願い申し上げます。

山野　紀恵 *(Yamano Michie)*

（医薬文献情報担当）

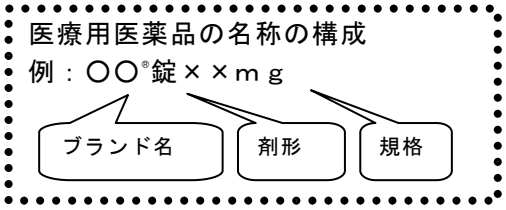
この度、常勤嘱託職員としてお世話になることになりました。私はこれまでは医薬系出版社で編集を担当しておりました。その関係で、以前から JAPIC を存知あげておりましたが、こちらで仕事をすることになり、そのご縁を感じております。大学では、英文学と化学を専攻し、また、大学院では臨床薬学を学びました。こちらでは、これまでの経験と知識を生かして、少しでも皆様のお役に立ち、お客様に喜んでいただける仕事がしたいと思っております。

さて、仕事のほかには、趣味として声楽を習っております。数年前の発表会では CD を作成しましたが、あまりの酷さにがっかりしました。ですが、歌うことは身体にも良いことですし、ある牧師さんも、「1 日に 3 曲歌うと、毎日を明るく生きられる」とおっしゃっていますので、皆様にも歌をお勧めしたいと思います。将来は大ホールでオーケストラをバックにベッリーニを歌いたいと、大それた夢を抱きながら練習しております。このような未熟者ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

日本の医薬品の数はどのくらいあるのか？

JAPIC では 30 年以上に亘り、医療用医薬品集などの編集を行っております。そのため、利用者の方から、「日本の医薬品の数はいくつあるのか？」というご質問を戴くことがあります。そこで 2006 年 10 月時点の医療用薬・一般用薬についてまとめてみました。

医薬品数を数える前に医療用医薬品と一般用医薬品の成分構成の違いを理解する必要があります。大雑把にいうと、医療用医薬品は**有効成分一成分**のものがほとんどであり、それに対し一般用医薬品は、医療用医薬品としても使用されている（又はされていた）成分からなり、**複数有効成分の配合剤**が大半を占めます。成分構成が異なっているため、医療用・一般用各々で数えることとします。



・医療用医薬品の数

医療用医薬品は先述のとおり有効成分が単独のものがほとんどで、その数は、主に次の 3 パターンが挙げられます。

① 有効成分の数：2,056 成分
（漢方処方などの配合剤も一処方を一つとしてカウント）

② その成分を含む商品の数：15,838 商品
（いわゆるブランド名の数）

③ 商品の規格（含有量などが異なるもの）まで含めた数：17,948 規格

〔JAPIC 医療用・一般用医薬品集インストール版より〕

・一般用医薬品の数

一般用医薬品は商品の入れ替わりが医療用医薬品に比べて非常に早く、実態が把握しにくいという現実があります。よって，参考値となりますが，JAPIC が毎年行っている一般用医薬品調査（2006 年 3 月調査）によると，一般用医薬品の商品数は 10,926 商品で，一般用医薬品を構成する有効成分は 408 成分となります。

・医薬品数の傾向

医療用医薬品の有効成分数はここ数年やや減少傾向にあります。理由の一つに，再審査等で効果が明確でない医薬品が整理されていることが挙げられます。

また，近年後発医薬品の名称を“一般名＋製造販売会社”へ統一する流れが有り，それに呼応して（ブランド名としての）商品数としては減少すると考えられます。

また後発医薬品推進のために先発医薬品と同じ規格を有するよう促進しているので，規格数としては増加すると考えられます。

一般用医薬品の数はここ数年やや減少傾向にあります。これについては，近年 2 度にわたって行われた医薬部外品への移行が原因の一つと考えられます。

また，医療用薬・一般用薬共に，利益の上がらない製品は順次整理されているという状況も十分考えられます。

・まとめ

前記の医療用医薬品の数，一般用医薬品を合わせた結論として，“日本の医薬品の数”というと，次のようにまとめることができます。　（添付文書情報担当　小野塚　誠）

> 現在わが国で用いられている医薬品の数は、約 2,100 種の有効成分（約 26,000 商品）である。そのうち、医師の処方が必要なく薬局で市販されている医薬品の成分は約 400 種（約 10,000 商品）である。

ブータン〔2〕

ネパールと似ている保健衛生事情 でも将来は？

土屋 自佑 *(Tsuchiya Jiyu)*
JICA シニア海外ボランティア

昨年 12 月 14 日、ブータンに若き第 5 代国王が誕生しました。2008 年の戴冠式までは国王見習いとして第 4 代国王と一緒にブータンをリードしていくことになるのでしょう。

ブータンは二つの大国、中国とインドに挟まれた小さな山岳国家であり、中印紛争の緩衝地帯としてネパールと非常に良く似た事情があります。ブータンはチベットの伝統を多く受け継ぐ国ですが、近年、インド寄りの政策を選択し、現在、中国とは国交がありません。ブータンは長い間、鎖国政策を取っていたために、国際援助を受けて開発を開始したのが他の国々に比べて遅くなりました。ネパールを反面教師として、開発によるマイナス面を最小化させるように進めているところがあります。現在、保健衛生の統計的数字はネパールと非常に似ていますが、将来どのような数字になっていくのか興味がもたれます。

国民 1000 人当たりの出生率が 20 に対して、5 歳以下の小児死亡率は小児 1000 人当たり 61.6、乳児死亡率は乳児 1000 人当たり 40.1 です。小児の死亡原因のうち感冒、下痢、皮膚感染が 50%以上を占めています。出産後 42 日以内の母体死亡率は妊婦 1000 人当たり 2.2 で、死因の 53%が出産時の大出血、ついで 18%が子癇痙攣発作です。妊婦の 70%は妊娠期間中に BHU 注) などの医療機関で母親学級を受けていますが、助産婦なしでの自宅出産が 48%です。

出産に関しては数字的にネパールと非常によく似ていて、出産が母子共に危険な国であるといえます。
ブータンでは BHU を中心として、家族計画サービスと妊娠時の保健サービスを行っています。これらは WHO などの援助を受けて保健省の開発プログラムとして組まれています。

都市部の新しい家々の多くには水洗トイレが備わっていますが(37.5%)、農村部では屋外の厠(53.0%)やトイレがなかったり(10.1%)(写真 1)します。農村に屋外のトイレを普及させるために、多くの BHU にはトイレのモデルを展示しています。(都市部と農村部の人口比は 30%,70%です。)

写真 1 ：このようなトイレがあるのはまだ良いほうです。

屋内まで水道を引いているのはわずか

22.7%で、都市部の富裕層になります。都市部でも多くの家では屋外の水道(61.5%)を使用して、農村山岳部では川や泉などから水を汲んでいます（14.3%)。まだまだ水汲みが重労働であり、子供たちの過酷な仕事となっています。

写真 2：ヤク

標高 5000m の高地にヤクという家畜が大量に生息しています。ヤクの排泄物が地中に滲みこんで地下水を汚染しています。汚染した川の水を汲んで調理しているのですが、その土地の人にとっては特に問題はないようです。私たちティンプーに住んでいる外国人は少なくともフィルターを通した水を飲むように指導されています。カトマンズでは生野菜は寄生虫の危険性のため食べられなかったのですが、ブータンでは思い切り食べることができます。とんかつに添えるキャベツの美味しいこと、野菜サラダの瑞々しいこと、ネパールでは味わえませんでした。まだブータンは人口が少ないため、人が作り出す諸々の汚染物質の量よりも自然の浄化作用のほうが上回っているからでしょうか。

首都ティンプーの真ん中を流れるティンプー川はカトマンズのバグマティ川に比べればはるかに透明度が高いのですが、年毎に汚染されてきているようです。ティンプーの郊外に下水の処理場がありますが、ここに到達する下水よりも、直接川に流れ込んでしまう下水の方が圧倒的に多いように思います。首都への人口流入がこれらの処理に追いつけないからです。私の配属先伝統治療院でも医薬品の製造に使う有機溶媒や酸アルカリなどは大量の水と共に垂れ流されています。伝統治療院に早急に排水処理施設を作らなくてはならないのです。安価で効果的な排水処理方法を皆様からご教授いただければうれしいのですが・・・・。

調理用の燃料源は電気 30.6%、薪 37.2%、LPG25.5%です。豊富な水量を活かした水力発電により、安価な電力が手に入るので、電気の使用率が高くなります。余った電気はインドに売って外貨を稼いでいます。我が家では暖房、お風呂の湯沸し、台所のお湯等すべて電気です。日本では考えられない電気の使用方法です。電気の供給が国内に急ピッチで進んでいますが、山奥の村ではまだ電気のない生活です。

LPG が近年急速に普及してきましたが、相変わらず、薪を燃やすかまどでの調理が一般的です。しかし、ネパールに比べて眼疾患に罹患している人は少なそうです。かまどには煙突が備え付けられているからでしょうか。それともブータン料理では煮炊きの時間が非常に短いこともあるかもしれません。

ブータン料理は唐辛子や野菜が主体のチーズ煮込み（エマダチ）か、肉（豚、牛、鶏、ヤク）の唐辛子煮です。これらの料理は大量の油の中に食材(肉と唐辛子、野菜)と大量の塩、大量のチーズを入れて煮込んで調理されます。ブータンでは野菜として唐辛子を料理しています。ブータン人はこれをおかずに大きなお皿に山盛りのご飯を食べます。

大量の炭水化物、脂肪、そして塩の摂取はネパールと同じような食生活で、日本と同じような生活習慣病の人が多く見られます。ネパールの知識人はこの食生活を改善すべきであることに気付きました。しかし、ブータン人は味に対して非常に保守的で、唐辛子を主体とした料理以外の味を受けつける人が極めて少ないため、食生活の改善は非常に難しいと思われます。

国民 1000 人当たりの死亡率は 7 であり、2005 年の国勢調査の結果では死亡原因は感冒、皮膚感染、消化性潰瘍の 3 つで全体の 37.7%でした。保健省が毎年実施してい

る世帯調査では死亡原因が心臓血管障害(18.7%)、肝硬変(7.8%)、喘息(6.9%)であるという報告もあります。

肝硬変が高い死亡原因のひとつであるのは、ブータン社会ではアルコール摂取が当たり前のように深く根付いているためだといわれています。日本の焼酎に似たアラという地酒は誰でもが作れます。ブランディ、ウィスキー、ジンなど世界の強いお酒はほとんどブータンで作ってしまいました。こんなに多くの種類のお酒を作ってしまう製品開発意欲をどうして他の製品開発にも情熱を注がないのでしょうか？私は薬草の製品開発を技術移転するために派遣されたのですが・・・・

標高 200m の南部では、マラリア、デング熱等の感染症も無視できませんが、ブータン全体としては低い発生率です。

1993 年以降 HIV の感染は 83 例報告されました。ブータンは性に関して非常におおらかな国です。ほとんどが 10 代で結婚します。また、離婚率は 40%とも言われています(未確認)。先代王様は 4 人のお后を持っているように、この国では正式に複数の配偶者を持つことができます。私の配属先にもそのような人が数人います。兄弟姉妹で結婚するケースも多く見られます。

このような状況で HIV 感染の拡大は深刻な問題と捉え、多くの団体がキャンペーンを行っています。BHU には家族計画キャンペーンと合同で無料のコンドームを配布しています。しかし、ほとんどの HIV キャンペーンでは一人が感染すると急速に感染が拡大することを訴えているだけのようです。もっと HIV／AIDS そのものの危険性を訴える必要があるのではないかと思います。(写真 3)

ブータンの開発について、他の途上国と同じ土俵、同じ物差しで語ることはできないのではないかと思います。開発開始が遅かったことにより、いたずらな開発の無意味さを知り、幸福という数字で表せない物差しを用いて、独自の道を歩いています。

人口 60 万人の小さな国で賢い国王にリードされているから成り立っているのだと思います。

写真 3：HIV キャンペーンの一風景。
コンドームの風船が飾ってある。

その是非論は別として、「健康は人類の基本的人権である」ことを忘れずにいたいと私は思います。

注）BHU: Basic Health Unit （村単位の医療機関でほとんどの BHU には医師はいない）

2005 年の国政調査結果は以下のｳｪﾌﾞｻｲﾄで見ることができます。
http://www.bhutancensus.gov.bt/Fact_sheet.pdf

(続く)

新着資料案内 －平成 18 年 12 月 11 日～平成 18 年 1 月 11 日受け入れ

図書館で受け入れた書籍をご紹介しています。
この情報は附属図書館の蔵書検索（http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm）の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。
閲覧をご希望の場合は、JAPIC 附属図書館（電話 03-5466-1827）までお越し下さい。

〈 配列は書名のアルファベット順 〉

書名 著者名	出版社名	出版年月	ページ	定価
2006 USP 30-The United States Pharmacopoeia /NF 25 The National Formulary				
USP Convention, Inc.	USP Convention, Inc.	2006 年	3 Vol.	¥85,438
米国薬局方。				
2007/2008 科学機器総覧(第 20 版)				
東京科学機器協会	東京科学機器協会	2006 年 11 月	1,768p	
中日辞典 第 2 版 新装版第 1 刷				
北京・商務印書館、小学館 編	小学館	2006 年 10 月	2,114p	¥11,000
Drug approval and licensing procedures in Japan 2005				
MITSUHIRO OSADA 訳	じほう	2006 年 12 月	973p	¥92,400
医薬品製造販売指針 2005 英文版。				
European pharmacopoeia 5th edition Supplement 5.7				
Council of Europe	Council of Europe	2006 年 9 月	422p	
基本医療六法 平成 19 年版				
基本医療六法編纂委員会 編	中央法規出版	2006 年 12 月	1,856p	¥3,780
期待されるチアゾリジン薬				
門脇 孝 編	フジメディカル出版	2007 年 1 月	225p	¥3,360
厚生行政関係公益法人要覧 平成 19 年版				
国政情報センター	国政情報センター	2006 年 12 月	589p	¥7,140
医育機関名簿 2006-'07				
羊土社名簿編集室	羊土社	2006 年 12 月	656p	¥14,700

書名 著者名	出版社名	出版年月	ﾍﾟｰｼﾞ	定価
Martindale: The Complete Drug Reference. 35th edition				
Sean C. Sweetman ed.	Pharmaceutical Press(GBR)	2007 年	2 Vol.	¥76,953
世界中で使用される医薬品、薬物について、評価された情報を収載。				
MIMS New Ethicals 2007 Issue 6				
Elizabeth Donohoo ed.	CMPMedica(NZ) Ltd.	2007 年 1 月	658p	
ニュージーランドの全医薬品、OTC 薬を収載。				
日本薬局方医薬品情報 2006（JPDI 2006）				
日本薬剤師研修センター 編	じほう	2006 年 12 月	2,157p	¥27,300
予防接種のすべて 2006				
日本小児科学会 日本小児保健協会他編	日本小児医事出版社	2006 年 9 月	181p	¥3,150

新入会員機関

新たにご入会いただきました　（敬省略）

日本ジェネリック（株）
大阪大谷大学
京都大学
同志社女子大学
あおば調剤薬局
あさひ調剤薬局
朝日薬局
赤坂パークビル脳神経外科
おかじま調剤薬局はまなす店
佐藤医院
シオン薬局
新緑ホームケアクリニック
医療法人タケシマ整形外科医院
古市耳鼻咽喉科医院
医療法人千心会まんばクリニック
医療法人社団明陽会メイヨ歯科
村瀬内科胃腸科クリニック
メリーライフ・サン薬局
ヤマムラ薬局

情報提供一覧

平成 19 年 1 月 1 日から 1 月 31 日の期間に提供しました情報は次の通りです。
出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局業務・渉外担当（TEL.03-5466-1812）までお知らせ下さい。

情　報　提　供　一　覧	発行日等
<出 版 物 等>	
1.「医薬関連情報」1 月号	1 月 26 日
2.「Regulations View」No.137	1 月 26 日
3.「JAPIC NEWS」No.274	1 月 26 日
4. JAPIC「医療用医薬品集」2007　更新情報 2006 年 12 月版	毎月末日
5. JAPIC「医療用・一般用医薬品集ｲﾝｽﾄｰﾙ版」2007 年 1 月版	1 月 26 日
<速報サービス>	
1.「医薬関連情報　速報 FAX サービス」No.568－570	毎　週
2.「医薬文献・学会情報速報サービス（JAPIC-Q サービス）」	毎　週
3.「JAPIC-Q Plus サービス」	毎月第一水曜日
4.「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス（JAPIC Daily Mail）」No.1378－1395	毎　日
5.「感染症情報（JAPIC Daily Mail Plus）」No.173－176	毎週月曜日
6.「PubMed 代行検索サービス」	毎月第一・三水曜日
7. JAPIC「医療用医薬品集」2007 更新情報メールサービス 2006 年 12 月版	毎月 10 日
デ ー タ ベ ー ス 一 覧	**更 新 日**
iyakuSearch　*<http://database.japic.or.jp/>*	
1. 医薬文献情報	月　1　回
2. 学会演題情報	月　1　回
3. 医療用医薬品添付文書情報	月　2　回
4. 一般用医薬品添付文書情報	随　時
5. 規制措置情報	毎　日
6. 臨床試験情報	随　時
7. 日本の新薬	随　時
8. 学会開催情報	月　2　回
<JIP e-InfoStream から提供> *<https://e-infostream.com/>*	
1.「JAPICDOC 速報版（日本医薬文献抄録速報版）」	月　1　回
2.「JAPICDOC（日本医薬文献抄録）」	月　1　回
3.「ADVISE（医薬品副作用文献情報）」	月　1　回
4.「MMPLAN（学会開催予定）」	月　1　回
5.「SOCIE（医薬関連学会演題情報）」	月　1　回
6.「NewPINS（添付文書情報）」（月 2 回更新）	月　2　回
7.「SHOUNIN（承認品目情報）」	月　1　回
〈JST　JDreamⅡから提供〉　<http://pr.jst.go.jp/jdream2/>	
「JAPICDOC（日本医薬文献抄録）」	月　1　回